

「主の一方向的な恵み」創世記 15：7－21

アブラムは、15：1－5で、主の遠大なご計画を示された。主は、ご自身の愛する友のようにアブラムに接せられる。外に連れ出し、星空を見せ、「あなたの子孫はこのようになる」と言われた。実に美しい光景。それは私達を励まし、嬉しくさせるような感動的な事。偉大な神が、小さな一人の人間に、ご自分の将来の計画の一端を示し、共有したいと願っておられる。この場を支配しているのは神の一方向的な優しさ。アブラムは、主のご計画を見せられ、神の優しさに触れ、これを喜び、主を信じる。：6。神のご計画に同意し、主を信じ、神に受け入れられ、神との人格的な交わりをしている。

I また彼に仰せられた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを連れ出した主である」：7。ここで「主」とあるが、神の直接の名前でアブラムにご自身を示された。あなたを異教の社会から、混沌とした悪の支配する領域から、やがて滅びて行く世俗の中から、連れ出したのは、わたしだ、と言われる。一方向的に、彼を選び、一方向的に恵みの交わりに引き寄せ、一方向的に、ここまで導いて来られたのは「主」。アブラムだけでなく、私達にも、一方向的な主の恵みが与えられている事を本日も、いつも心から感謝したい。目的は、アブラムに「この地を与えるため」と言われる。約束の地に住まわせること。それは、アブラムが「義と認められる」以前から、神のご計画があったことを示している。神の恵みは先行している。私達の行いによるのではない。神の主権のうちに、初めから備えられている恵みのご計画。アブラムやモーセに示された「約束の地」は、確かに、この地上のカナンの地だった。しかし、新約時代に生きる私達は、この約束の地が、「天の御国」の型（指し示すもの）である事も知っている。へブル11：6でこう言われています。「しかし、事実、彼ら（アブラムを含む）は、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました」。信仰によってこの天の故郷に迎え入れられる事を人生の目標としていた。私達も、同じ主を信じ、同じ天の御国に迎え入れられる約束をいただき、天に召される日まで、地上で、主に頼り、主と共に歩む恵みの人生が与えられている。

II 彼は申し上げた。「神、主よ。それが私の所有であることを、どのようにして知ることができましょうか」：8。アブラムは、神の言葉を疑って、尋ねたわけではない。誠実に応答している。この世の常識からすれば、土地の所有の為の契約が必要。彼は、真剣にその土地の約束を思い、その約束の確認を求めている。彼の神の言葉への誠意は、神のご人格に触れる交わりの中から来ていると思われる。愛の恵みをもって、こんな小さな者に、惜しみなくご自身のご計画を伝えて下さる神への感謝と尊敬が、そうさせていると思われる。神との交わりが深められている。私達も、御前に静まりの時を持ち、神との交わりが深められますように。

III 「すると彼に仰せられた。『わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩とそのひなを持ってきなさい。』彼はそれらの全部を持って来て、それらを真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向い合せにした」：9，10。神は、当時の社会で行われた契約の儀礼をもって応えられた。当時、契約を交わす者同士が、その契約が確かになされた事を示す象徴的な行為として、その切り裂かれた動物の間を通った。その儀式で契約の締結をした。神は、アブラムと、当時の契約の儀式を用いて約束を交わされる。エレミヤ34：18に、「わたしの前で結んだ契約のこぼを守らず、わたしの契約を破った者たちを、二つに断ち切られた子牛の間を通った者のようにする」とあ

る。この契約の儀式は、もしこの契約を破れば、この二つの切り裂かれた動物のようになるという「のろい」を象徴的に示している。17節に、「煙の立つかまど」と「燃えているたいまつ」が、あの切り裂かれたもの間を通り過ぎたと記されている。この二つは、旧約聖書では、「神の臨在」を示す表現。つまり見えざる神。神ご自身が、間を通り過ぎられた事を示している。アブラムと神の両者ではない。神が一方的に、間を通られた。アブラムへの約束は永遠の約束である事を示す。これが破られる事はない。もし、破られたなら、神がのろわれ、神が二つに切り裂かれるということか。神ご自身が、へりくだられて、アブラムに契約が完全に締結された事を示された。これは注目に値する事。新約聖書の教えを与えられた私達は、永遠の命と天の御国の相続人として、主を信じる私達を迎えて下さる救いの為に、自ら「のろい」をお受けになり、十字架で切り裂かれた神の御子キリストを知っている。「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました」（ガラテヤ3：13）。感謝！それも、ご自分のほうから、一方的に、進んで私達の罪のために十字架で死なれた。「自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義（神との正しい関係）のために生きるためです」（1ペテロ2：24）。「信仰による人々（私達）が、信仰の人アブラハムとともに、祝福（義とされる救い）を受けるのです」（ガラテヤ3：9）。

IV 「日が沈みかかったころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして見よ。ひどい暗黒の恐怖が彼を襲った」：12。アブラムは、圧倒的な聖なる神の臨在を経験する。この時は、これまで以上に神が彼に近づかれた。聖書が一貫して示している事は、神の聖なる臨在に近づけられる時、人間は恐怖を覚える。12節に、「ひどい暗黒の恐怖」とある。神の聖さの前で、自分の罪と汚れを意識し、神の恵みなしには、自分は絶望的と恐怖が襲う。魂の奥底まで見通される神の聖さと栄光に近づかれ。モーセの時代に神が臨在されたシナイ山も「山は激しく燃え立ち、火は中天に達し、雲と暗やみの暗黒とがあった」と記されている（申命記4：11）。この聖なる偉大な神を知る時、私達が、主の十字架の恵みにより、神に近づき親しい交わりが出来る事が、当たり前前事ではなく、いかに偉大な恵みなのか分かる。

V：13－21の御言葉から教えられる事、励まし。①：13→世界の歴史、神の民の苦しみの期間を支配し、すべてに、ご計画を持っておられる。②：14→神は、すべてを知り、時満ちて、偉大な力で、正しくさばかれる。時満ちて、神の民を救い出される。③：15→アブラムや私達の生まれ、生涯、最後の死をすべて支配し、すべてを知り、導かれる。それ故に私達は、「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう」（ヤコブ4：15）という生き方ができますように。④：16→国々、人々の罪が満ちる事を見、知っておられる。私達は、罪が満ちる前に、一つ一つの罪を神の前に悔い改めて歩みたい。⑤：18－21→主はアブラムと契約を結ばれたが、それは、私達と関係がない事ではない事を感謝したい。「信仰による人々（主を信じる私達）が、信仰の人アブラハムとともに、祝福（神の救い、御国の相続）を受けるのです」ガラテヤ3：9